

高校一年の秋の大会で、くやしい負けかたをした気持ちちは、円谷選手を大きく成長させていたのです。高校三年生になると、全国大会の代表選手になり、他県の選手と肩かたをならべて活やくするようになりました。いつも礼ぎ正しく、まじめでさわやかな選手として、他県の選手からもほめたたえられるようになりました。高校三年生の秋に、進路希望のことですこしなやみましたが、郡山自衛隊じえいたいに合格かくしました。これは、ランナーとしての自分をもつときたえたいし、また、老おいた両親の農業の手伝いもしたい。そんなことが心の中にあつたからです。

規則きそく正しい生活ができ、練習時間もとれる生活は、円谷選手にとって最高の職しよく場ばでした。間もなく自衛隊体育学校にすいせんされて、有名なコーチから訓練を受けることになりました。

全日本の代表選手に選ばれるように成長していった円谷選手は、昭和三十八年八月のプレオリンピック大会にも選ばれ、五千メートルと一万メートルに出場して入賞する活やくをしました。オリンピックで勝つためにはどうしても最後の力